



ぬち どう たから

命こそ宝！～6月23日は沖縄「慰霊の日」～

「命こそ宝！」、命が何より大切。沖縄では「ぬち・どう・たから」と読み、ずっと受け継がれている大事な言葉です。

6月23日は「沖縄慰霊の日」。戦争で亡くなった多くの沖縄の人を思い、平和を願う日です。沖縄県の条例で、記念日として定められています。

今から79年前の1945年（昭和20年）、沖縄県では住民をまきこんだ日本とアメリカの激しい戦争「沖縄戦」がありました。唯一の地上戦で大きな被害を受けた沖縄では、日本軍の組織的な戦闘が終わったとされる6月23日を、平和を誓う「慰霊の日」として定めているのです。

この日には追悼式が行われ、その中で「平和の詩」が朗読されます。「平和の詩」は毎年、沖縄県内の小中学生と高校生による応募作品から選ばれています。今年は879作品の中から、県立宮古高校3年の仲間友佑さんの「これから」という詩が選ばれ、平和への祈りを込めて朗読されました。

この詩には、本物の力強さがあり、強烈なインパクトがあります。平和について真剣に考える若者たちを育てている沖縄の「平和教育」の厚みを感じます。生きた本物の教材が身近にあることの強みでしょうか。やはり沖縄の方は生きてきたバックボーンが違うのだと思います。

ぜひ、「これから」の詩に触れていただきたいと思います。次号で全文を紹介します。